

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 繼続認証 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

1. 団体情報

企業・団体名	沖縄ツーリスト株式会社
--------	-------------

初回申請から更新した箇所は黄色セル

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン）※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会・目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）	2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
地域に根ざす沖縄の旅行会社として、当社は65年以上にわたり沖縄県民の皆様に育てていただきました。そのなかで培ったつながりと、交流人口創出という旅行会社の機能を活かし、県民の皆様と一緒により良き沖縄を実現することが当社のSDGsです。 【目標】沖縄を「世代を超えて・あらゆる命が栄え・すべての人が自分らしく・よく生きられる世界」にする。 【重点的に取り組む領域】 ●地域主導型観光の推進：観光を通じてお客様・事業者・地域・環境の4者が共に栄える。 ●沖縄県内のSDGsリーダーとの連携：知恵を合わせ、沖縄県民を巻き込んで、SDGsを後押し。 ●ボランティアズムや再生型観光の推進。 ●沖縄の低炭素社会への貢献：カーボンニュートラルレンタカー事業、低炭素移動手段の活用、など。 ●沖縄の社会課題への対応：子どもの社会課題、地域活動の県民運動化、など。	

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）			
	概要	分類 ※任意の箇所は、フルダウントから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット			補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 (2025年)	目標値 (2027年)
1	ビーチクリーンツーリズム”という新ジャンルを確立し、「行けば行くほど環境が良くなる」沖縄ならではの再生型観光を世界に提示する。	経済	必須	優先課題④	④-1 魅力的な観光産業の展開と生物多様性の両立により、世界に誇る持続可能な観光地（サステナブル・ツーリズム等）の形成を実現する。	12.b、14.1、14.2、15.1、15.2、15.5	ビーチクリーン諸団体 ・産業廃棄物事業者 ・離島市町村自治会 ・離島の観光協会 ・離島の観光事業者 ・離島の小中学校 ・沖縄県ユネスコ協会 ・（一社）しまなみ ・NPO法人海さくら	具体的的には以下の取組： ・離島ビーチクリーンツアーアー訪問離島数（累計） ・びらつか磨での、県内のビーチクリーン情報の発信 中核施策は、離島ビーチクリーンツアーアー	①離島ビーチクリーンツアーアー訪問離島数（累計） ②ツアーパートナーの総合満足度における5段階評価のうちTop1の評価をつけた参加者の割合	①4島 ②平均80.0%	①25島
2	教育界・自治体・経済界が参加する地域活動プラットフォームを創出し、地域活動を県民運動化する。（“責任ある観光”的な素地にもなる。）	社会	必須	優先課題⑩	⑩-1 県民一人ひとりが地域活動に積極的に参画するローカルパートナーシップが充実した社会を実現する。	4.7 10.2 11.3 16.6、16.7、16.10、17.16、17.17	・日本ユネスコ協会連盟 ・沖縄県教育委員会 ・県内小学校、中学校、高等学校、大学 ・SDGs/スポーツ協賛事業者 ・県内の市町村自治体 ・県内の市民活動団体	沖縄ツーリストは、10年来、会長や理事を出し、事務局を受け持つことで、沖縄県ユネスコ協会の運営の中核を担っている。	SDGs/スポーツの： ①導入教育機関数 ②30ボランティア登録者数	①79機関 ②年間67人	①95機関 ②年間120人
3	2050年までに、「ガソリンオンライン車比率実質ゼロ×EV再生可能エネルギー充電」というカーボンニュートラルレンタカー事業を実現する。	環境	必須	優先課題⑥	⑥-2 2050年度カーボンニュートラルの実現に向けて、本県の地域特性に合ったクリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収対策等が進み、低炭素で災害に強い、沖縄らしい島しょ型エネルギー社会に向けた基盤形成を実現する。	7.1、7.2、7.3、9.1、9.4、9.5、11.2、13.2	・レンタカー利用客 ・公官庁、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県 ・自動車メーカー ・リース会社 ・沖縄電力	①当社レンタカーにおけるガソリンオンライン車比率 ②豊崎レンタカーステーションでの太陽光発電	①32% ②出力65キロワット稼働	20%	②出力65キロワット稼働
4	子どもの居場所応援ビーチクリーン、および、沖縄の経済界による子どもの居場所支援を促進し、企業の社会的責任として、体験格差是正に貢献する。	ガバナンス	任意	優先課題②	②-6 生活困窮世帯の子どもや世帯を支援する官民の枠組みが充実し、子ども達が生き生きと活動できる環境の形成を実現する。	1.2、1.3、2.2、4.2、4.3、4a	・県内の子どもの居場所 ・居場所運営者のネットワーク ・日本ユネスコ協会連盟 ・SDGs/スポーツ利用者 ・琉球リゾートホールクラフト ・（一社）しまなみ ・沖縄経済同友会 ・休眠預金活用事業	ガバナンスOK-G-4「企業・団体の社会的責任にあたるためガバナンスと分類した。」 具体的には以下の取組： ・子どもの居場所応援ビーチクリーンの： ①招待する居場所数（累計） ②参加者アンケートでの全体満足度の平均点	子どもの居場所応援ビーチクリーンの： ①招待する居場所数（累計） ②5点満点の4.55 ②5点満点の4.8点	①5施設 ②5点満点の4.55	①22施設 ②5点満点の4.8点
5											

上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細	
*各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。	
取組1	<p>取組の詳細</p> <p>「ビーチクリーンシリーズ」という新ジャンルを、以下の取り組みを通じて、確立していく：</p> <p>○離島ビーチクリーンツアー： 沖縄の有人離島38島すべてを、ビーチクリーンツアーで訪問する。</p> <p>○沖縄まるごとゴミ拾い： 毎年9月に、県内各地約500のビーチで行う、多拠点分散型ビーチクリーンイベント。県主催「みんなでSDGs」の一環。</p> <p>○びらつか祭での、県内のビーチクリーン情報の発信： 每月10件前後のビーチクリーン/タウンクリーン情報を発信し、県民や観光客の参加を促進している。</p> <p>核となるのは離島ビーチクリーンツアー。ツアーシリーズのタイトルは「ビーチクリーンで想いを繋ぐ沖縄の離島全島チャレンジ」。</p> <p>取組において、現時点で実施／決定していること</p> <p>○離島ビーチクリーンツアー： 令和6年度に開始し、これまで、伊是名島、伊江島、津堅島、阿嘉島にツアーを出し、約120名のビーチクリーン爱好者をお連れした。この取り組みは、日本旅行業協会のJATA SDGsアワード環境部門特別賞を受賞した。県の沖縄観光コンベンション開発支援事業に採択された。</p> <p>○沖縄まるごとゴミ拾い： 令和5年と令和6年の9月に開催し、それぞれ、1,200名・1,000名の参加を得た。</p> <p>○びらつか祭での、県内のビーチクリーン情報の発信： 每月10件前後のビーチクリーン/タウンクリーン情報を発信。</p> <p>取組において、今後予定していること</p> <p>○離島ビーチクリーンツアー： 令和7年11月伊平屋島ツアーア、12月久米島ツアーア、1月久高島ツアーアを実施。同2月粟国島ツアーア、3月鹿間味島ツアーアを予定している。</p> <p>○沖縄まるごとゴミ拾い： 令和7年9月開催済。</p> <p>○びらつか祭での、県内のビーチクリーン情報の発信： 毎月10件前後のビーチクリーン/タウンクリーン情報を発信。</p> <p>KPIに対する指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法</p> <p>核となる取り組み、離島ビーチクリーンツアーでKPIを設定する。量的側面・質的側面の2面で設定する</p> <p>①量的側面： 離島ビーチクリーンツアーフ訪問離島数。最終目標は38離島全部の訪問であるが、5-6年はかかる見込みのため、2年後の累計訪問島数で設定する。</p> <p>②質的側面： ツアーア参加者の学習効果や環境意識を含めた指標としての総合満足度。これまでのツアーアの総合満足度は、5段階評価のTop1が77.8%と極めて高く、これを維持する。</p> <p>取組を推進する体制</p> <p>○沖縄ツーリスト内： SDGsESG経営推進室、県内企画部、感動企画室。</p> <p>○外部連携先： (一社)しまねわ・NPO法人海から、びらつか祭</p> <p>○県の沖縄観光コンベンション開発支援事業の事務局とアドバイザーとも連携する。</p>
取組2	<p>取組の詳細</p> <p>沖縄県ユネスコ協会を通じて、SDGsバースト運動を推進し、地域活動の県民運動化に取り組む。SDGsバーストは、地域活動やボランティアのスタンプ帳で、ポイントを30以上ためて申請するとユネスコ協会から認定証が発行される。(30ボラン達成者)</p> <p>小中高校生用に設計された仕組みだが、沖縄県では、協賛事業者の社員・家族・市民ボランティアも使えるようになっている。沖縄ツーリストは、10年来、会長や理事を出し、事務局を受け持つことで、沖縄県ユネスコ協会の運営の中核を担っている。</p> <p>取組において、現時点で実施／決定していること</p> <p>5年目となる令和7年度は、県内75の教育機関・41の協賛事業者・2市町村自治体(那覇市、読谷村)が参画している。30市町連携者は令和7年度67名と順調に増えている。新たに自治会や公民館での活用の気運が高まり、若狭公民館×那覇中学校、おもろまち自治会×高校生プロジェクト、といった活用事例が生まれてきている。各種中高生イベントでSDGsバースト持参が見られるようになり、沖縄の学校・市町村・経済界が参加する地域活動プラットフォームになってきた。</p> <p>取組において、今後予定していること</p> <p>(これまでの取り組みの推進)</p> <p>○参加校拡大： 高等学校では県内全高校数の半分を超え、中学校では特に離島町村の中学校での活用が盛んになり、この流れを継続する。</p> <p>(新たに注力する取り組み)</p> <p>○市町村自治体による地域包括的活用： 読谷村教育委員会による自治会・婦人会・子供会での活用、うるま市の感動産業特区施策としての活用、浦添市での市内全中学校での利用、などを実現する。</p> <p>○公民館や自治会による活用： 若狭公民館×那覇中学校、おもろまち自治会×高校生プロジェクト、およびそれに続く活動を開拓する。</p> <p>KPIに対する指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法</p> <p>OSDGsバーストが最も活発に活用されている教育機関における導入数。</p> <p>これまで年次で30→46⇒66⇒79と増加。2025年の増加率20%，今後2年で20%増やすして、79x120%=95</p> <p>OSDGsバースト利用者の継続的な地域活動をせず30ボラーン達成の数。</p> <p>これまで年次で23→14=35→67と増加。2025年の増加率91%，今後2年で約80%増えるとして、67x180%=120</p> <p>取組を推進する体制</p> <p>○沖縄県ユネスコ協会に、SDGsバースト担当常任理事(沖縄ツーリスト在籍者)とサポート(沖縄ツーリスト在籍者)を配置。</p> <p>○上位団体である日本ユネスコ協会連盟からの補助金支援。</p> <p>○(一社)しまねわなど、外部の連携団体。</p>
取組3	<p>取組の詳細</p> <p>①国や県の制度をタブリードに活用、OTSレンタカーのEV車とHV車(ハイブリッド車)の比率を順次拡大し、2050年にガソリンオーリー車実質ゼロ化を目指す。国や県の制度としては以下を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄型クリーンエネルギー導入促進調査事業 ・沖縄Electric Vehicle導入促進調査事業 ・その他、今後発表される国や県の支援制度 <p>なお、当初は全レンタカーカーをEV化することを掲げていたが、EV車のみではなくHV車・環境配慮型の車両の比率を増やしていくことにより取組に切り替えて、取組を変更している。</p> <p>②豊崎レンタカーステーションの太陽光発電を、EVレンタカーの充電需要に追いつくよう、適宜強化していく。</p> <p>取組において、現時点で実施／決定していること</p> <p>①OTSレンタカーのEV車は、7台、全車両の5%にまで増えた。HV車は現在全車両の63%。</p> <p>②豊崎レンタカーステーションでの太陽光発電は、現在発電出力65kW・蓄電池13.5kWhで稼働中。</p> <p>沖縄電力グループが太陽光第三者所有セナリオを利用。これにより、年間85tのCO2排出削減を実現している。</p> <p>取組において、今後予定していること</p> <p>①国や県の制度を積極的に活用して、OTSレンタカーにEV車とHV車を導入していく</p> <p>②沖縄電力グループと一緒に、太陽光発電の出力増加もしくは蓄電池容量の増加の検討</p> <p>KPIに対する指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法</p> <p>①当社レンタカーにおけるガソリンオーリー車比率をKPIとし、最終目標を「2050年時点10%未満」とする。2027年については、現時点の32%との中间点の20%と設定する。ただし、国や県の制度や補助に合わせて適宜、上方・下方含め、見直し可能性がある。</p> <p>②太陽光発電の稼働に関するKPIについては、現在の出力レベルで十分な出力数を担保できていることから、現状維持を目標とする。</p> <p>取組を推進する体制</p> <p>OEV車・HV車購入計画： 当社のOTSレンタカー部、総務部。</p> <p>○支援制度活用： 関係会社㈱OTSサービス経営研究所が経済産業省・沖縄総合事務局のEV車促進政策に関わっており、適切な・タイムリーな支援事業の活用を指南する。</p>
取組4	<p>取組の詳細</p> <p>沖縄における最大の社会課題である“子どもの貧困”への対応は、企業の社会的責任である。当社は2つのアプローチで対応する。</p> <p>○居場所の子どもの体験格差の解消： 沖縄県ユネスコ協会を通じて、体験格差解消を目指すビーチクリーンを開催し、居場所の子どもたち(と運営者)を招待する。年間8回程度開催し、毎回ひとつ(orふたつ)の居場所を招待する。</p> <p>○子どもの居場所を支援する事業者を増やす取り組み： 当社が委員をつめる沖縄経済同友会や休眠預金事業を通じて、課題の認知と理解を深め、支援企業を増やす。</p> <p>取組において、現時点で実施／決定していること</p> <p>○子どもの居場所応援ビーチクリーン： 令和7年5月に試験実施を行い、座組とイベントフォーマットが固まった。座組は、当社と沖縄県ユネスコ協会が主催し、(一社)しまねわがビーチクリーンとビーチBBQ、琉球フットボールクラブ株式会社がビーチ遊びを担当する。県内の子どもの居場所とのネットワークを広げたり、すでに複数の居場所から開催依頼が来ている。沖縄県ユネスコ協会への補助金申請が現在審査中。</p> <p>○支援する事業者を増やす件： 沖縄経済同友会SDGs委員会は年度内に子どもの居場所をテーマにした委員会を開催する予定で、現在、事務局に子どもの居場所を紹介している。「沖縄版 誰もが支え合い働く社会の実現事業2(休眠預金活用事業)」では審査員＆推進委員に任命され活動している。</p> <p>取組において、今後予定していること</p> <p>○子どもの居場所応援ビーチクリーン： 令和7年8月19日に、与那原町と八重瀬町の居場所の子どものたちを招待して開催済。</p> <p>・その後も、9月～12月、月1回子どもの居場所応援ビーチクリーンを開催済。</p> <p>KPIに対する指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法</p> <p>核となる取り組み、子どもの居場所応援ビーチクリーンについて、量的・質的側面でKPIを設定する。</p> <p>○量的側面： 2か年の開催回数。</p> <p>○質的側面： 参加者アンケートで、主体性や自己肯定感の芽生えを確認する。</p> <p>取組を推進する体制</p> <p>沖縄県ユネスコ協会、日本ユネスコ協会連盟(補助金)、(一社)しまねわ、琉球フットボールクラブ、子どもの居場所運営者ネットワーク(沖縄県子どもの居場所ネットワーク)おきなわ、沖縄県フリースクール居場所等運営者連絡協議会)</p>